



ボートを持ち笑顔を見せる伊藤さん

輝いています

福井しあわせ元気国体ボート成年男子部門出場

ひと

伊藤 大生 さん

積み重ねた力で全国3位

水 上を風のように走り、イムを競うボート競技。その中の一つ、ダブルスカル1000級の埼玉県代表として10月に行われた「福井しあわせ元気国体」に出場し、みごと3位の座に輝いたのは早稲田大学漕艇部の伊藤大生さん(22歳・中央3丁目)です。笑顔に満ちたその表情は達成感であふれていました。

伊藤さんは高校入学後に友人に誘われボート部に入部。最初は試合に勝てず悔しい思いをしましたが、大会での敗北を糧に猛特訓。陸上でもトレーニングできる専用の器具を使うなど、練習に明け暮れました。そして2年生で全国3位になる快挙を成し遂げ、

その後も大舞台での経験を積んできました。大学では創部100年以上の歴史を持つ早稲田大学漕艇部に入部。4年生になると主将を務め、部をまとめる傍ら、個人としてもセレクションに積極的に参加し、県代表やU-23の日本代表の座をつかんできました。

国体はグループごとの1位勝ち抜き戦で、初日は台風の影響でボートに水が入ったり、風で揺れたりとアクシデントに見舞われましたが、無駄のないオールさばきと鍛え上げた筋力で荒れた波のなかでも着実にこぎ進め、勝利を収めました。その後も順調に勝ち進み、4県代表が競う決勝では3位に。国体の舞台で今まで積み重ねてきた成果を十分に発揮しました。

「これまでの集大成として全力を出し切ることができました」と話す伊藤さん。来年4月からは社会人となり、ここで7年間のボート生活に一旦の区切りをつけることになりましたが、「ボートを通じて多くのことを学ぶことができました」と、にっこり。挑戦を続けることで自身を大きく成長させた伊藤さん。また、活躍する姿が楽しみです。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

— No.31 —



暁斎筆「狹客日本魂於迷府大猛勇頭」元治元年(1864) 山口板 大判錦絵三枚続

文化六年(1809)刊行の式亭三馬作『金神長五郎忠孝話』の一場面を、暁斎が描いた版画です。全身に文身を入れた「金神長五郎」が、地獄の相撲で「金剛尊」を投げ飛ばしています。それを見守る人々は、生前、雁

金五人男として名を馳せた悪党や、歌舞伎で天下を狙う大悪人として描かれる「大伴黒主」といったならず者のほか、「稲田姫」や瀧夜叉姫らの女傑もそろい、柱の向こうでは冥界の恐ろしい妖怪たちが集まって、どちらが勝つか固唾を飲んでいます。



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勸業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ 暁斎 天保2年(1831) ~明治22年(1889)

河鍋暁斎記念美術館 12月23日(日・祝)まで
「暁斎が生きた時代と妖怪画」展 同時開催
「暁斎プラスワンシリーズ28 初代彫蓮 暁斎に魅せられて「式」展

開館 = 午前10時~午後4時
休館 = 木曜日・毎月26日~末日・年末年始
ところ = 南町4-36-4
入館料 = 一般600円 中学生~大学生500円
小学生以下300円 (20人以上の団体は要予約)
詳細 = 同館 ☎441-9780



展覧会の詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください

